

北海道各地から産出する黒曜石
その65

～分析方法と各組成グループについての特徴～

～その4～

(14)奥尻組成グループ

奥尻地域(奥尻島)から採取される。図1より他の組成グループに近似している。しかし、図2において、 SiO_2 値が77.29～77.69wt.%の値を示す割には、 FeO 値が0.47～0.54wt.%のやや低い値を示すのが特徴である。また、奥尻組成グループは独特の外観を呈し、肉眼でも十分区別可能である。

(15)十勝Ⅰ組成グループ

十勝地方から採取される。漆黒色でガラス光沢を呈する。図1において $\text{CaO}/\text{Al}_2\text{O}_3$ 値は、0.055～0.057の範囲を示し、釧路Ⅰ組成グループの同値(0.047～0.051)に近似する。しかし、十勝Ⅰ組成グループは、図2において CaO 値が0.69～0.72wt.%の値を示し、釧路Ⅰ組成グループの同値(0.60～0.65wt.%)より高い値を示すのが特徴である。

(16)十勝Ⅱ組成グループ

十勝地方から採取される。図1より豊浦組成グループや旭川Ⅰ組成グループに近似しているが、十勝Ⅱ組成グループは、図2において、 FeO 値が0.68～1.02wt.%、 CaO 値が1.00～1.13wt.%を示し、且つ、 SiO_2 値が77.73～78.11wt.%の範囲を示すことが特徴である。更に、肉眼的に漆黒色でにぶい光沢を呈するので容易に分類できる。

(17)紋別組成グループ

紋別地域から採取される。図1より他の組成グループに近似している。しかし、図2において、 TiO_2 値が0.05～0.09wt.%の値、 Cl 値が0.01～0.06wt.%の低い値を示し、且つ、 SiO_2 値が77.89～79.06wt.%の範囲を示すことが特徴である。更に、その特徴的な外観で容易に他のグループと区別がつく。

(18)留辺蘂Ⅰ組成グループ

岩山ノ沢Bで採取される。図1において他の組成グループに近似し、特に旭川Ⅰ組成グループに似ている。しかし、図2において、旭川Ⅰ組成グループと比較した場合、留辺蘂Ⅰ組成グループは、 TiO_2 値が0.06～0.09wt.%の値、 Cl 値が0.07～0.11wt.%のやや高い値を示し、且つ SiO_2 値が76.26～77.30wt.%のやや低い値を示すことが特徴である。

(19)留辺蘂Ⅱ組成グループ

分岐A、通子沢A、セノ沢Bで採取される。留辺蘂Ⅱ組成グループは、図1において $\text{CaO}/\text{Al}_2\text{O}_3$ 比が0.107～0.115の値を示し、北海道内から産出する黒曜石中では、旭川Ⅱ組成グループに次いで高い値になる。図2においても CaO 値が1.45～1.55wt.%であり、これも同様に旭川Ⅱ組成グループに次いで高い値になるのが特徴である。

※図1、図2は、地学シート No.65、No.66を参照

地学シートHP



地学Sheets

Asahikawa City Museum

Mukai Masayuki
(学芸員 向井 正幸)

旭川市博物館HP

